

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、持ち直している」

項 目	前回（6 年 7 月判断）	今回（6 年 10 月判断）	前回 比較
総括判断	持ち直しのテンポが緩やかになっている	持ち直している	

（注）6 年 10 月判断は、前回 6 年 7 月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、物価上昇の影響がみられるものの、持ち直している。生産活動は、化学や電気機械などが増加しているものの、輸送機械や生産用機械などが減少しており、弱含んでいる。雇用情勢は、人手不足を背景に企業の採用意欲が高い状況にあるなか、改善しつつある。

【各項目の判断】

項 目	前回（6 年 7 月判断）	今回（6 年 10 月判断）	前回 比較
-----	---------------	----------------	----------

個人消費	物価上昇の影響がみられるなか、回復に向けたテンポが緩やかになっている	物価上昇の影響がみられるものの、持ち直している	
生産活動	弱含んでいる	弱含んでいる	
雇用情勢	改善しつつある	人手不足を背景に企業の採用意欲が高い状況にあるなか、改善しつつある	

設備投資	6 年度は増加見込みとなっている（全規模・全産業ベース）	6 年度は増加見込みとなっている（全規模・全産業ベース）	
企業収益	6 年度は減益見込みとなっている（全規模ベース）	6 年度は減益見込みとなっている（全規模ベース）	
企業の景況感	「下降」超となっている（全規模・全産業ベース）	「上昇」超となっている（全規模・全産業ベース）	
住宅建設	前年を上回っている	前年を下回っている	
公共事業	前年を上回っている	前年を上回っている	
輸出	前年を上回っている	前年を上回っている	

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、欧米における高い金利水準の継続や中国における不動産市場の停滞の継続に伴う影響など、海外景気の下振れが景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「物価上昇の影響がみられるものの、持ち直している」

百貨店販売額、スーパー販売額、コンビニエンスストア販売額、ドラッグストア販売額、家電大型専門店販売額、ホームセンター販売額は、物価上昇に伴う商品価格の値上げの影響もあり、前年を上回っている。乗用車の新車登録届出数は、軽乗用車が前年を下回っているものの、普通車、小型車が前年を上回っており、全体として前年を上回っている。宿泊や飲食サービスなどは、持ち直している。

このように個人消費は、物価上昇の影響がみられるものの、持ち直している。

(主なヒアリング結果)

- ラグジュアリーブランドのバッグ、宝飾、時計、化粧品などが好調。このほか、気温上昇に伴い、サングラス、ブラウス、パンツ等の夏物衣料も好調で、業況は良い。(百貨店)
- 買い控えにより販売点数は減少しているものの、商品価格の値上げにより、売上げは前年を上回っている。猛暑の影響でペットボトル飲料やアイスクリームのほか、家庭での揚げ物などの調理機会が減ったことから、総菜類の販売が好調。(スーパー)
- 台風や天候不順により客数減となったが、値上げの影響で売上げは前年を上回っている。(コンビニエンスストア)
- 8月は酷暑の影響を受け、エアコンや日焼け止め、殺虫剤などが好調だったほか、相次ぐ自然災害により、防災関連商品である水、ウォータータンク、携帯トイレ、懐中電灯なども好調だった。(ホームセンター)
- モデルチェンジに伴い、既存顧客への営業を促進した結果、販売台数が増加している。(自動車販売)
- インバウンドが好調に推移し、客室の稼働率が高水準であることに加え、宿泊価格の値上げにより売上げが増加している。なお、通常8割程度が外国人観光客であるが、お盆の時期は国内客も増加しており、6割程度が日本人となった。(宿泊)
- タイパ・コスパを重視する消費者が増えていることから、外食を手ごろな価格帯で利用できる当社の客が増加しており、客数・客単価・売上高いずれも前年を上回って推移している。(飲食サービス)

■ 生産活動 「弱含んでいる」

生産を業種別にみると、化学や電気機械などが増加しているものの、輸送機械や生産用機械などが減少しており、全体としては、弱含んでいる。

なお、非製造業では、リース業の取扱高、情報サービス業及び広告業の売上高いずれも前年を上回っている。

- 取引先である完成車メーカーにおける国内外の売行きが不調であることやEV化の進展により業況が悪化しており、生産は前年を下回っている。(輸送機械)
- 今秋あたりには、半導体の在庫調整が終わるとみていたが、今のところメーカーの増産には至っておらず、当社の半導体製造装置向けの受注も低調で生産量は前年を下回っている。(生産用機械)
- 国内外の自動車メーカーの設備投資が本格的に回復してきており、当社の生産量は前期比・前年同期比ともに増加している。特に経済発展が進んだ新興国からの受注が増えている。(電気機械)

■ 雇用情勢 「人手不足を背景に企業の採用意欲が高い状況にあるなか、改善しつつある」

新規求人数は減少しているものの、完全失業率は前年を下回っており、有効求人倍率は上昇している。人手不足を背景に企業の採用意欲が高い状況にあるなか、雇用情勢は改善しつつある。

- DX関連の職種に人手不足感があり、中途採用を増やしている。また、社員のリスクリングに力を入れ、DX人材を内部で調達できるよう検討を進めている。(製造)
- 人手は常に不足しており、作業の集中化や外注の導入により対応している。常時、中途採用を行っているが、カスハラへの対応もあって小売業は避けられがちであることから応募人数は減少しており、スポットワークの利用が増加している。(小売)

■ 設備投資 「6年度は増加見込みとなっている」(全規模・全産業)「法人企業景気予測調査」6年7-9月期

- 製造業では、情報通信機械などで減少見込みとなっているものの、化学、自動車・同附属品などで増加見込みとなっていることから、全体では増加見込みとなっている。
- 非製造業では、学術研究、専門・技術サービス業などで減少見込みとなっているものの、運輸業、郵便業、金融業、保険業などで増加見込みとなっていることから、全体では増加見込みとなっている。

- 生成AI向けデータセンターなどで高性能半導体の需要が急増していることから、先端材料の増産を加速させるため、工場を増設し生産能力増強を図る。(化学)
- コロナ禍において車両投資を見送っていたが、足下で利用者が増加していることから、新規に車両を購入する。(陸運)

■ 企業収益 「6年度は減益見込みとなっている」(全規模)「法人企業景気予測調査」6年7-9月期

- 製造業では、情報通信機械などで増益見込みとなっているものの、鉄鋼などで減益見込みとなっていることから、全体では減益見込みとなっている。
- 非製造業では、学術研究、専門・技術サービス業などで増益見込みとなっているものの、運輸業、郵便業などで減益見込みとなっていることから、全体では減益見込みとなっている。

■ 企業の景況感 「『上昇』超となっている」 (全規模・全産業) 「法人企業景気予測調査」6年7-9月期

- 大企業は「上昇」超幅が拡大し、中堅企業は「上昇」超に転じ、中小企業は「下降」超幅が縮小している。
先行きについては、全規模・全産業ベースで「上昇」超で推移する見通しとなっている。

■ 住宅建設 「前年を下回っている」

- 新設住宅着工戸数をみると、貸家は前年を上回っているものの、持家、分譲住宅は前年を下回っており、全体として前年を下回っている。

- 資材費・労務費の高騰分の価格転嫁で販売価格が上昇している一方、物価高により消費者の可処分所得が減っていることから住宅購入マインドが低迷しており、注文住宅の受注が伸び悩んでいる。(住宅建設)
➢ 人口減少やライフスタイルの変化から持家を選ぶ人が少なくなっており、アパートなど貸家の需要が伸びていると感じる。金利上昇について問い合わせは増えているものの、今のところ大きな影響は感じられない。(住宅建設)

■ 公共事業 「前年を上回っている」

- 前払金保証請負金額をみると、独立行政法人等、都県が前年を下回っているものの、国、市区町村が前年を上回っており、全体として前年を上回っている。

■ 輸出 「前年を上回っている」

- 通関実績(円ベース、東京税関と横浜税関の合計額)でみると、輸出は前年を上回っている。
なお、輸入も前年を上回っている。

■ 倒産 「件数は前年を上回っているものの、負債総額は前年を下回っている」

3. 各都県の総括判断

	前回 (6年7月判断)	今回 (6年10月判断)	前回比較	総括判断の要点
埼玉県	持ち直しのテンポが緩やかになっている	持ち直している	➡	個人消費は、物価上昇の影響がみられるものの、持ち直している。生産活動は、一進一退の状況にある。雇用情勢は、人手不足を背景に企業の採用意欲が高い状況にあるなか、持ち直しつつある。
千葉県	持ち直している	持ち直している	➡	個人消費は、一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある。生産活動は、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。雇用情勢は、緩やかに持ち直しつつある。
東京都	回復しつつある	回復しつつある	➡	個人消費は、回復しつつある。産業活動は、緩やかに回復しつつある。雇用情勢は、改善している。
神奈川県	回復に向けたテンポが緩やかになっている	足踏みの状況にある	➡	個人消費は、物価上昇の影響はみられるものの、回復しつつある。生産活動は、弱含んでいる。雇用情勢は、持ち直している。
茨城県	持ち直しのテンポが緩やかになっている	持ち直している	➡	個人消費は物価上昇の影響がみられるものの、持ち直している。生産活動は一進一退の状況にあり、雇用情勢は緩やかに持ち直している。
栃木県	持ち直している	持ち直している	➡	個人消費は、緩やかに回復しつつある。生産活動は、横ばいの状況にある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
群馬県	持ち直している	持ち直している	➡	個人消費は、緩やかに回復しつつある。生産活動は、持ち直しつつある。雇用情勢は、足踏みの状況にある。
新潟県	持ち直している	持ち直している	➡	個人消費は、回復に向けたテンポが緩やかになっている。生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、改善しつつある。
山梨県	一部に弱さがみられるものの、持ち直している	持ち直している	➡	個人消費は、持ち直している。生産活動は、横ばいの状況にある。雇用情勢は、持ち直している。
長野県	持ち直している	持ち直している	➡	個人消費は、緩やかに回復しつつある。生産活動は、持ち直しつつある。雇用情勢は、足踏みの状況にある。